

B-43 イガの越冬と食害および生存率
文化女子大家政 桑名寿一

目的 日本のように冬が寒い所でのイガの生活, 繊維害虫としての活動, その家屋暖房との関連などの疑問, 対策事項に応じた資料を得んとす。

方法 1: 屋内自然環境, および 25°C , 75% RH でイガを年間飼育し, 生活史を追う。
2: 幼虫の羊毛食害量を $25\sim 5^{\circ}\text{C}$, 75, 35% RH で測定す。3: イガ幼虫を $25\sim 0^{\circ}\text{C}$ に1~4ヵ月おき, 生存率を見よ。

結果 1: A. 25°C , 75% RH, 長日飼育の場合, 1世代概畧雄65日, 雌70日で, 年一回同じパターンを4~6回繰返す。B. 屋内自然環境(日照, 冷暖房なし)飼育では, 4~7月産卵のものは上記と大差なく世代を終了; 8~11月産卵のものは, 冬前に世代完了のものと, 越冬后翌春羽化するものとが混在す。余りの環境では越冬幼虫は少しづつ成長す。A, Bを通じ生存率(羽化成虫数の使用卵数に対する率)は72~89%であり, 越冬虫に多くは変化はなかつた。Bの12~3月の温湿度は $15\sim 5^{\circ}\text{C}$, 60~20% RH。

2: 羊毛食害量(対10匹幼虫(体重/匹筒と約2mg), 1週間)は75% RHで各温度につき: 25° , 36 mg; 20° , 27; 15° , 13; 10° , 2.5; 5° , 0.2。35% RHでは少し少ない。

3: $25\sim 15^{\circ}\text{C}$ の生存率は約80%と見られよ。 $10\sim 0^{\circ}\text{C}$ では: 10° で1, 2, 3, 4ヵ月放置各々82, 65, 55, 32%; 5° で23, 10, 8, 8%; 0° で10, 6, 5, 3%。

結論 余りの狭った自然環境に因するおぎり(少し寒さがたりないが), イガは幼虫越冬し, 生存率は低くない。この間の食害量は無視してよいほど低くない。1ヵ月以上連続 10°C 以下にならぬ所は別として, 冬はイガの害には注意を要す。